

〈創立45周年シリーズ〉第3回

モーツァルト室内管弦楽団

第164回定期演奏会

〈ベートーヴェン・シリーズ〉第5回

Ludwig van Beethoven

ベートーヴェン

交響曲 第1番 ハ長調 作品21

ピアノ協奏曲 第2番 変ロ長調 作品19

交響曲 第7番 イ長調 作品92



指揮◆門 良一

開演10分前より指揮者によるプレトーク有



ピアノ◆上野 真



2015.

5/10(日)

いずみホール

JR環状線「大阪城公園」駅から徒歩3分、「京橋」駅から徒歩7分、
地下鉄長堀鶴見緑地線「大阪ビジネスパーク」駅から徒歩5分。
有料駐車場完備

2:00pm開演(1:30pm開場)

入場料：一般 ¥5,000(指定席) / 学生 ¥1,000(当日限定数発売) *小学生よりご入場いただけます。

主催◆モーツァルト室内管弦楽団 <http://www.moz-kam.org> 協賛◆いずみホール [一般財団法人住友生命福祉文化財団]

マネジメント◆大阪アーティスト協会 TEL06-6135-0503/FAX06-6135-0504 〒530-0041大阪市北区天神橋2-5-25-909 e-mail:artists@gol.com

前売

大阪アーティスト協会 050-5510-9645(電話受付:平日10~18時) いずみホール 06-6944-1188 チケットぴあ 0570-02-9999(Pコード:248-231)
ローソンチケット 0570-084-005(Lコード:59009)

*大阪アーティスト協会は世界の子どもの未来を支える大阪ユニセフ協会に賛同し、コンサート会場で募金活動等を行いながら、音楽を通して少しでも社会に貢献できるような取り組みを続けています。皆様のあたたかいご支援ご協力をお願い申し上げます。



室内オーケストラが奏でる期待の〈ベートーヴェン・シリーズ〉

年1回、全7回の予定で2011年から開始されたモーツァルト室内管弦楽団の〈ベートーヴェン・シリーズ〉はいよいよ後半に入ろうとしている。40名の室内オーケストラによるベートーヴェンの演奏はその新鮮な響きが好評を得ているようである。

ベートーヴェンの最初の交響曲である第1番ハ長調は、交響曲分野の大先輩であるハイドンの影響が大きいとよく言われるが、ベートーヴェン独自の強烈な個性が随所に現れている傑作であろう。交響曲第7番イ長調は中期の円熟味を感じさせるが、各楽章に特徴的なリズムを配した特異な名曲である。ともに室内オーケストラによる明晰な演奏が大いに期待される。

ピアノ協奏曲第2番変ロ長調はベートーヴェンの事実上の最初のピアノ協奏曲であるが、今回すばらしいソリストを得て、あまり知られていないこの作品が再認識されることは必定であろう。

モーツァルト室内管弦楽団／指揮：門 良一 *Mozart-Kammerorchester Japan / Ryoichi Kado, Dirigent*

1970年に指揮者 門 良一によって設立され、40数年間一貫して30数名のメンバー構成を維持するわが国では数少ない本格的プロ室内オーケストラである。レパートリーはモーツァルト、ハイドンを中心とした古典派からバロック、前期ロマン派に及び、最近ではフランス近代の作品にも手を伸ばしている。モーツァルトに関しては交響曲と協奏曲の全曲を演奏した日本唯一のオーケストラであり、創立当初から新モーツァルト全集に準拠した楽譜を使用していることは注目に値する。91年のモーツァルト没後200年に際しては2年にわたり記念シリーズを催し、なかでもモーツァルトの予約演奏会プログラムを完全に再現した日本初の企画は大いに話題を呼んだ。演奏スタイルは中規模編成の特色をフルに生かしたもので、的確なテンポ、明快なリズム、清澄なサウンドは定評のあるところである。関西一円で演奏活動を展開するなかで、90年からは大阪いずみホールを本拠として年6回の定期演奏会を開催。また隔年毎に東京定期演奏会を行い既に17回を数えている。海外では88年にはドイツ民主共和国文化省の招聘による旧東独国内への演奏旅行を成功させている。内外の著名アーティストと数多く協演しており、なかでもマリア・ジョアオ・ピリス(85、87年)、シプリアン・カツリス(93、94年)、ペーター・ダム(83、86、88、98、00年)、ウィーンフィル木管アンサンブル(86年)、ライナー・キュッヒル(90年)らとの名協演はいまも語り草となっている。91年に姉妹団体、モーツァルト記念合唱団を誕生させ宗教曲等で活発に協演する他、93年には堺シティオペラの協力による〈モーツァルト・オペラシリーズ〉を開始し、いずれも好評をもって迎えられている。06年1月にはモーツァルト生誕250年記念特別企画としてオペラ《イドメネオ》の世界初オリジナル・ノーカット版演奏会形式上演を挙行し絶賛を浴びた。「素晴らしい成果」(毎日新聞)、「この楽団は注目」(朝日新聞)。07～09年全10回にわたる〈没後200年記念ハイドン・シリーズ〉を、09～11年全18回にわたる〈創立40周年シリーズ〉を、また10年からは〈ベートーヴェン・シリーズ〉を開催している。

上野 真●ピアノ *Makoto Ueno, Piano* <http://www.makotoueno.jp/>

祖母と父親がオルガニストの家庭に育ち、4歳からピアノを始める。幼少時に鈴木吟子、宮沢明子両氏に師事。16歳で単身渡米し、フィラデルフィア・カーティス音楽院にて、故J.ボレット、G.グラフマン両氏の元で薫陶を受ける。その後1987年から1991年迄オーストリア・ザルツブルク・モーツァルトテウムにて故ハンス・ライグラフ氏に師事。故ミエチスラフ・ホルショフスキー、レオン・フライシャー、故エドワード・オードウェル、故フェリックス・ガリミール、故ロザリン・トゥーレック、アンジェイ・ヤシンスキ、故ジェイコブ・ラタイナー、ラドスラフ・クヴァピル各氏から様々な音楽的助言を受けている。1984年にはBBCテレビに出演。翌1985年には、カーネギー・リサイタルホールやJ.F.ケネディセンターなどでも演奏した。メーランド国際(1985・ワシントンD.C.)、バーゼンドルファー・エンパイア国際(1986・ブリュッセル)、ジュネーヴ国際(1988)、オルレアン20世紀(2002)、リヒテル国際(2005・モスクワ)などのコンクールで上位入賞。現在までソロの演奏会を、日本各地、タイ、韓国、アメリカ合衆国、ドイツ、チェコ、ベルギー、オランダ、フランス、オーストリア、メキシコ、ロシア、ラトヴィア、トルコなどで行い、また協奏曲では、札幌交響楽団、京都市交響楽団、東京佼成ウィンドオーケストラ、大阪シンフォニカー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、チューリヒ室内管弦楽団、スイス・ロマンド管弦楽団、ナショナル交響楽団(ワシントンD.C.)、モスクワ放送響、スタヴァンゲル交響楽団(ノルウェー)、サマラ交響楽団(ロシア)、UNAM管弦楽団(メキシコ)等、各国のオーケストラと共演している。また2004年より、19世紀から20世紀前半のフォルテピアノやピアノの名器を使つての演奏会を、京都、大阪、名古屋、東京、札幌など日本各地で開催、又それらの名器を駆使してのレコーディングも精力的に行っており、高い評価を得ている。2004年にリスト・超絶技巧練習曲全曲とトランスクリプションのデビューCDをリリース(Octavia)。2006年にはSACDのアルバム、「3つのモダン・タイムズ/ドビュッシー・バルトーク&ストラヴィンスキー」を発表(Octavia)。2011年には、歴史的楽器、1816年製ブロードウッドと1820年製マテウス・シュタインを使つた「ベートーヴェンのピアノソナタと幻想曲」のソロアルバムを発表(Octavia)。2013年春には1925年製ニューヨーク・スタインウェイを使用したラフマニノフとドビュッシーのアルバムをリリース(若林工房)、11月には1846年製ブレイエルと1852年製エラールを使用したショパン・ソナタ集のアルバムを発表(Octavia)。いずれもレコード芸術誌特選盤、および準特選盤。2014年9月には1852年製エラールによるリストのアルバムを発表、12月にはNaxosレーベルから、フルーティスト瀬尾和紀とのコラボレーションによる、モシエレスの作品集、ツェルニーの作品集がリリース予定である。1996年以来京都を拠点とする。京都市芸術新人賞、青山バロックザール賞を受賞。現在京都市立芸術大学音楽学部准教授。近年名古屋音楽大学客員教授、桐朋学園大学院大学特別招聘教授としても後進の指導にあつている。日本音楽コンクール、全日本学生コンクール、宝塚バガ音楽コンクール、松方ホール音楽賞等、国内主要なコンクールの審査員を務め、ドイツ、トルコ、韓国など海外でもマスタークラスを行うなど、教育的活動にも力を入れている。